

第四章 職業訓練生のプロフィールについて

― 訓練生個々人の能力・適性に関する事例 ―

1. 訓練生個人の理解の必要性

訓練客体個人を理解するには、その個人を含む集団の特性が把握されていなければならない。そこで、第一章、第二章においては総合高等職業訓練校に学んでいる人々の素質および職業興味に関する全般的な実態について分析し、集団の基準をもとめてきた。

本節では、総訓生の素質および職業興味に関する集団特性を基準として、ひとりひとりの訓練生について、どのような能力、適性をもっているか、どのような諸事情をもっている青少年が職業訓練で学んでいるか、その実態を事例的に把握する。

人間はひとりひとり顔がことなるように、ひとりひとり人間の内面的な「個性」もことなっている。さらに、現代社会の中におかれている個人は職業選択、教育的進路選択においてもいろいろの様相をしめしている。

例えば、進路指導との関連での個人をみると次のような事実も報告されている。

“1.5ヘクタールの耕作面積を持つ専業農家の長男である。教師からすれば農業をあきらめて、普通高校の理数科にはいり、将来は医者になってもなった方がずっとよいとさえ思える子である。ところが農家の親にしてみれば思いもよらない空論でしかない。その親は頑としてきかない。農家の長男であることと、現に労働力を不足して困っていること。将来は農業だけでは暮せないから兼業農家になる。

そこでその子を専修職業訓練校の溶接科に入れたいという。そこは例年定員に満たないほどの応募状況だ。経費はかからず、年期はみじかく、そのうえ将来は農閑期の冬に出稼ぎに行く、そのとき何か技術を身につけていた方が条件がよい、”という記述である。

このような現代社会の職業訓練であり、その中で学ぶひとりの青少年が存在するのである。そこで、本節では職業訓練で学んでいるひとりひとりの青少年がどのような特徴をもっているか、について、個性に関する要因、および、生活事情など家庭環境要因、職業訓練への進路選択の状況などについて総括的に分析して、職業訓練のプロフィールを事例的な実態として分析しようとするものである。訓練生の個性理解には (1)直接訓練生を観察してとらえる方法と (2)心理検査などによって把握する方法がある。

現段階においては、個性理解に関して、知能検査、職業適性検査、職業興味検査、性格検査など客観的方法を主体として、訓練生のひとりひとりの特徴をうきほりにした。

職業訓練の指導実践にあたっては、このような訓練生のひとりひとりの客観的な個性理解が効果をあげる重要な鍵になると考えるのである。

これから記述しようとする訓練生個々人のプロフィールはそれぞれ特徴があり、類型化することなどまったく不可能のようである。

しかし、便ぎ的に (a) 職業訓練に学んでいる一般的な訓練生の事例と (b) 特別の問題をもった訓練生の事例を分けてあげている。

職業訓練が職業人として次の時代をせおっていく、いきいきした青少年を育成することを期待するのであれば、このような個々の訓練生の個性理解を出発点とすることがどうしても必要なのではあるまいか。

2. 一般的訓練生の事例

《事例1》 Y, I 君 (総高訓「16」木工科)

学業成績が低く高校に進学できず、また家業をつぐために入校した訓練生

(総高訓への適応)

訓練成績は学科、実技とも下位群に属し、

訓練効果は1年次にはあがっていない。

(生活事情)

父は爆灯製作販売を主とし、家具、建具の受注製造をおこなっている。爆灯の需要が少なくなり注文がなく、家計をたすけるために母は旅館の手伝いをしている。

姉は高校に進学、またかれは双児であるがもう一人の女子は高校進学している。

(入校の動機)

中学3年次の学業成績はALL 2である

この成績では高校進学は無理とされる。

母の希望では、父が現在使用している道具を使ってほしいということもあって、総高訓の木工科に決定した。

また、中学担任教師によると、作業は遅いが工作は器用で、絵を描いても構図などはしっかりしていた。自習時間などは教科書を開くよりも、本たてなどを作ることを好んでいたそうである。

(能力、性格特性)

知能偏差値はSS 52である。

職業適性からみても木工平均値より高い値を示し、素質的には普通以上である。

職業興味検査では、自然的領域に高い値を示している。つまり、農業や動物飼育、草花栽培のような職務に強い興味をもっている。

性格特性としては調和的的平均的型のプロフィールを示し、積極的な診断はくだしにくい。

(期待)

素質はありながら、訓練効果はあがっていない。一般的に解釈すれば、学習に対して努力をおこなっているともみれる。

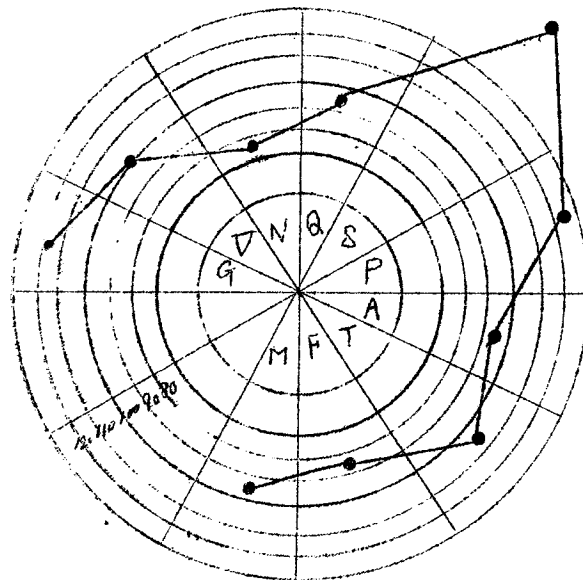
もし努力をおこなっているとすればなぜであろうか。

家業としての木工を選んだのであるから、意欲的に学習してもよさそうに思われるが、木工

科の進路決定は本人にとっては不本意なのかもしれない。父の職業生活を毎日観察している過程にかれの夢をたくすものがなかったのかもしれない。木工という職業を狭く解釈し、興味をもてないでいるのかもしれない。

このように、家業を継ぐという場合の青少年の職業訓練は適性、能力の配慮が複雑になると思われる。

さらに、姉は高校進学しているのに、学業成績の不振で高校に行けなかったことが心のどこかにひっかかっており、訓練校における学習に意欲がわかないとも推測できる。



興味の種類

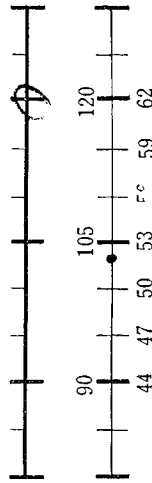
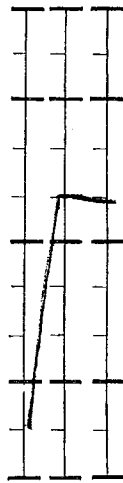
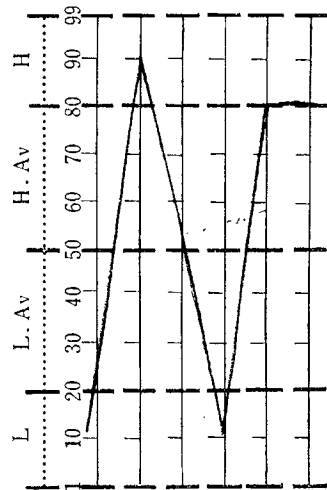
A 対人的, 社会的.....	得点	パーセン タイル
B 自然的.....	9	10
C 機械的.....	27	90
D 実業的.....	23	50
E 芸術的.....	10	10
F 研究的.....	21	80
	25	80

興味の種類

1 言語的.....	3	10
2 技能的.....	11	60
3 計算的.....	11	60

興味の水準

a $\frac{8}{8} \times 1 =$	8	知能
b $\frac{8}{8} \times 2 =$	16	指数
c $\frac{15}{15} \times 3 =$	45	偏差値



矢田部ギルフォード性格検査プロフィール

標準点	パーセン タイル	1	2	3	4	5
D	10	10	20	30	40	50
C	15	15	25	35	45	55
I	20	20	30	40	50	60
N	25	25	35	45	55	65
O	30	30	40	50	60	70
C	35	35	45	55	65	75
A	40	40	50	60	70	80
G	45	45	55	65	75	85
R	50	50	60	70	80	90
T	55	55	65	75	85	95
A	60	60	70	80	90	100
S	65	65	75	85	95	100

情緒的安定

社会的適応

非活動的

非活動的

内省的

非主導的

抑うつ性小
気分の変化小
劣等感小
神経質でない
客観的
協調的
攻撃的でない
非活動的
のんびりでない
思考的内向
服従的
社会的内向

情緒不安定

社会的不適応

活動的

活動的

内省的でない

主導権を握る

抑うつ性大
気分の変化大
劣等感大
神経質的
主観的
非協調的
攻撃的
活動的
のんびり
思考的外向
支配性大
社会的外向

《事例 2》 K、Y 君 (総高訓「19」木工科)

技術を身につけたいという理由で入ってきた訓練生

(総高訓での適応)

学科成績は中位、実技成績は上位である。

きまじめで素直である。

(生活事情)

父は農業で 140 アールの田畑をもっている。

長男であり、経済状況は普通である。

(入校動機)

中学 3 年次の成績は ALL 3 で県立高校の下の方であれば合格の可能性はあった。

自分で進路をきめられず困っていたが、3 年生の 9 月頃、農業はこれからどっちみちだめだから、技術を身につけたいということで、将来大工になりたいといってきた。

その主な理由は、親せきに大工がいて、職業訓練校をでたら、家を手伝ってくれといわれたことらしい。

また、とにかく勉強はもうやりたくない。物を作る方が好きであるという気持ちも先行してあったらしい。

このような事情から、総高訓の木工科を選んでいる。

(能力、性格特性)

知能偏差値は SS 49 で普通である。

適性性能では全般的にみて、普通であるが器用さで低い値を示している。

職業興味は対人的、自然的、機械的領域いずれにも高い値を示している

性格面では情緒安定、社会的適応、向性ともに平均型で特徴がみられない。

(期待)

素質もあり、職業興味も一致し、性格的にもきまじめで素直である。さらに、将来の職業を大工ときめて職業訓練校に入ってきている。

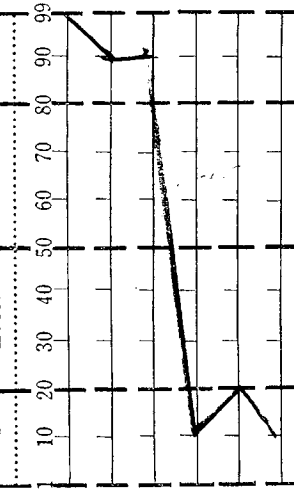
職業訓練で学ぶすべての条件をそなえている青少年といえよう。2 年間の職業訓練を通じて、かれの期待をどれほどみたしえたか、追跡調査する必要がある。15 才段階でこれなどにはつきり進路決定ができれば、適性、能力に応ずる職業訓練もやりやすいであろう。

興味の種類

- A 対人的, 社会的.....
B 自然的.....
C 機械的.....
D 実業的.....
E 芸術的.....
F 研究的.....

得点

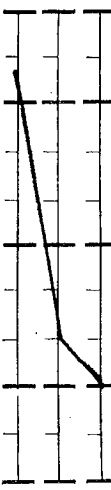
28
28
20
17
15
12



興味の型

- 1 言語的.....
2 技術的.....
3 計算的.....

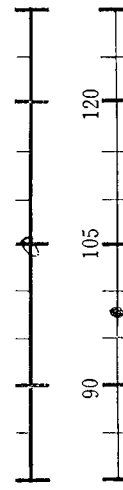
14
8
7



興味の水準

- a $12 \times 1 = 12$
b $4 \times 2 = 8$
c $14 \times 3 = 42$

62
50



指数
偏差値

矢田部ギルフォード性格検査プロフィール

標準点	1	2	3	4	5
パーソナリティ	1	5	10	20	30
D	0	1	2	3	4
C	0	1	2	3	4
I	0	1	2	3	4
N	0	1	2	3	4
O	0	1	2	3	4
C ₀	0	1	2	3	4
Ag	0	1	2	3	4
G	0	1	2	3	4
R	0	1	2	3	4
T	0	1	2	3	4
A	0	1	2	3	4
S	0	1	2	3	4

抑うつ性小
気分の変化小
劣等感小
神経質でない
客観調
攻撃的でない
非活動的
のんびりでない
思考的内向
服従的
社会的内向

抑うつ性大
気分の変化大
劣等感大
神経質
主観調
非攻撃的
活動的
のんびり
思考的外向
支配性大
社会的外向

情緒的安定

情緒不安定

社会的適応

社会的不適応

非活動的

活動的

非活動的

衝動的

内省的

内省的でない

非主導的

主導権を握る

《事例3》 T、Y君 (総高訓「15」仕上科)

知能は高いが、職業興味が訓練職種にあつていない訓練生。

(総高訓への適応)

学科成績、実技成績ともに上位でよくやっている。

(生活事情)

父は山林労務者であり、2人兄弟の次男である。

経済的くらしむきは普通である。

(入校動機)

中学3年次の成績は国語3、数学1、理科2である。

この成績からみて公立高校進学は無理であり、本人ははじめからあきらめていた。兄が大阪で菓子屋に勤務していたので、2年の時、そこに就職するつもりでいたが、3年になって総高訓の自動車整備科を希望した。しかし、仕上科に入っている。

(能力、性格特性)

知能偏差値はSS 52である。

職業適性検査では知能に関する性能は普通であるが、知覚に関する性能はかなりすぐれている。職業興味検査では「芸術的領域」で値が高いが、「機械的領域」は20パーセントイルで低い。

性格面でみると、社会的不適応にややかたより、思考的内向、服従的性格に特徴がみられる。

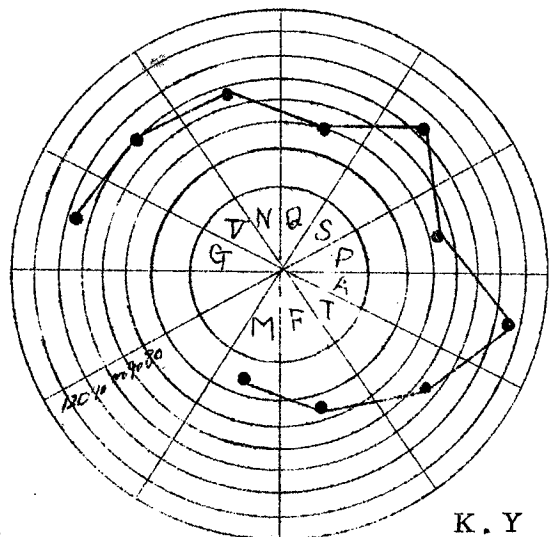
中学担任の記録には、落着があり、几帳面な方で自分の任務はこつこつと真面目に完遂する。口数少なく、自己を表にあまりださない。仕事を頼んでも信頼できるとある。

(期待)

この地域では私立工業高校がないなど教育機会に比較的めぐまれていない。ゆえに、他の地域の生徒より中学校での学業成績が高い者が総高訓にきている。

素質的にはめぐまれているが、職業興味が訓練職種と一致していない点が気になる。

職業訓練に入ってきた理由が詳細にはわかっていないが、職業興味が訓練過程でどのようにかわってくるか観察を継続したいものである。



興味の種類

A 対人的, 社会的	18	得点
B 自然的	17	
C 機械的	16	
D 実業的	24	
E 芸術的	32	
F 研究的	13	

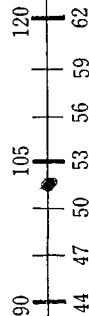
興味の型

1 言語的	11	60
2 技能	10	50
3 計算	4	1

興味の水準

a $60 \times 1 =$	10
b $11 \times 2 =$	22
c $4 \times 3 =$	12

指数
知能 偏差値



矢田部ギルフォード性格検査プロフィール

標準点	1	2	3	4	5	標準点															
パーセント	1	5	10	20	30	40	50	60	70	80	90	95	99								
D	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
I	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
N	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
A	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
G	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
R	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
T	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
A	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
S	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20

抑うつ性小
気分の変化小
劣等感小
神経質でない
客観的
協調的
攻撃的でない
非活動的
のんびり
思考的内向
服従的
社会的内向

抑うつ性大
気分の変化大
劣等感大
神経質
主観的
非協調的
攻撃的
活動的
のんびり
思考的外向
支配性大
社会的外向

情緒的安定
社会的適応
非活動的
非活動的
内省的
非主導的

情緒不安定
社会的不適応
活動的
活動的
内省的でない
主導権を握る

《事例4》 T、Y君 (総高訓「15」仕上科)

知能は普通、職業興味は高いが、性格的に心配される訓練生

(総高訓への適応)

訓練成績は中位である。

まじめで、はらを立てることもなく、とてもよくやっている。

性格的にも仕上工にむいており、経験をつめば将来成功する可能性が大きいとされている。

(生活事情)

父は林作業をしており、月給5万円である。

経済的くらしむきは普通である。

(入校動機)

中学3年次の成績はALL 2で、公立高校は無理である。

中学校の記録には「素直でおとなしく、何事にも真面目によく努力する」、「他とよく協調して仕事も行動もやや消極的である」、「意欲に欠ける」、などと記述されている。

特別に総高訓に進路を決定する理由はなかったが、中学3年次の学業成績が公立高校に入る段階に達しなかったので総高訓に入った。

(能力、性格特性)

知能偏差値はSS 41で低い。

職業適性検査でみると算数能力、手と眼の共応、運動速度では普通以上である。

職業興味では「機械的領域」で99パーセンタイル、「技能的型」で70パーセンタイルで訓練職種にむいている興味傾向を示している。

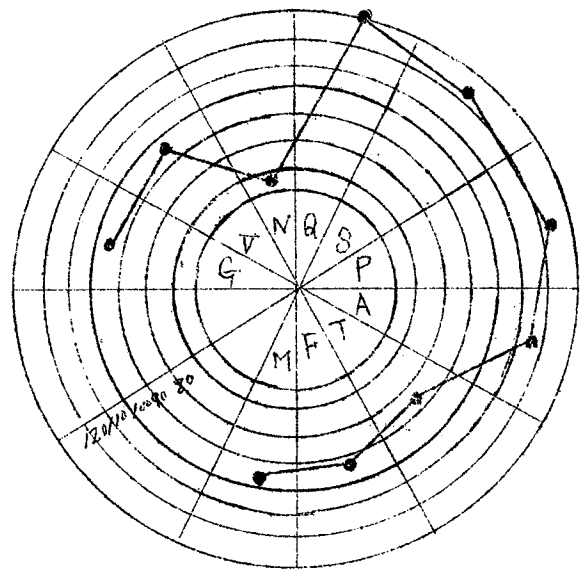
性格特性は情緒不安定、社会的不適応、服従的性格をしめしており、テストからみると問題をはらんでいる青年である。

(期待)

まじめでこつこつやる姿勢を継続して仕上工として成功をおさめてほしい。

知能が低くても職業興味が高いとある程度までの職務はこなせるものと解釈できよう。

心配な点は抑うつ性大、劣等感大、神経質と情緒不安定を示し、服従的性格であるのに加えて、知能水準が低いので、社会生活への適応において主体的な思考ができるような指導援助が必要なのではあるまいか。



興味 の 領域

興味 の 領域	得 点	パーセント タイム
A 対人的, 社会的.....	11	20
B 自然的.....	17	40
C 機械的.....	33	99
D 実業的.....	24	80
E 芸術的.....	21	30
F 研究的.....	14	20

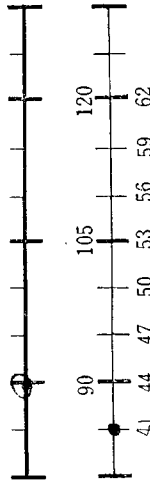
興味 の 型

1 言語的.....	6	20
2 技能 的.....	12	70
3 計算 的.....	8	30

興味 の 水準

a $\frac{15}{8} \times 1 =$	15
b $\frac{8}{8} \times 2 =$	16
c $\frac{17}{8} \times 3 =$	21

指数
知能
偏差値



矢 田 部 ギ ル フ ォ ー ド 性 格 検 査 プ ロ フ ィ ー ル

標準点 パーセント	1	2	3	4	5	標準点 パーセント
D	0	1	0	0	0	D
C	0	1	0	0	0	C
I	0	1	0	0	0	I
N	0	1	0	0	0	N
O	0	1	0	0	0	O
C	0	1	0	0	0	C
A	0	1	0	0	0	A
G	0	1	0	0	0	G
R	0	1	0	0	0	R
T	0	1	0	0	0	T
A	0	1	0	0	0	A
S	0	1	0	0	0	S

抑うつ性小
気分の変化小
劣等感小
神経質でない
客観的
協調的
攻撃的でない
非活動的
のんびりでない
思考的内向
服従的
社会的内向

情緒的安定

社会的適応

非活動的

非活動的

内省的

非主導的

抑うつ性大
気分の変化大
劣等感大
神経質的
主観的
非協調的
攻撃的
活動的
のんびりでない
思考的外向
支配性大
社会的外向

情緒不安定

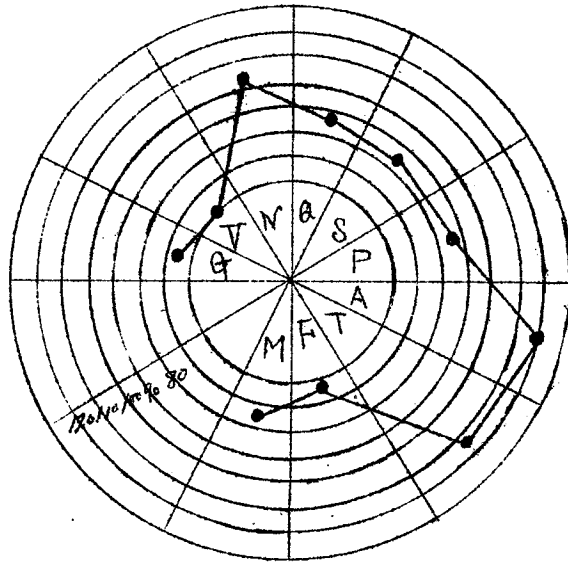
社会的不適応

活動的

活動的

内省的でない

主導権を握る



《事例5》 A、T君 (総高訓「15」自動車整備科)

知能は普通であるが、器用さのすぐれている訓練生

(総高訓への適応)

訓練成績は上位で、よくやっている。

(生活事情)

父は魚屋を経営し、行商もしている。

経済的には安定しており、2人兄妹の長男である。

(入校 動機)

中学での成績は国語3、数学2、理科3、技術2で公立高校は無理なので総高訓にきめた。

学問をやるより、機械いじりが好きで、夏休みに自動車をひっぱりだして修理していたこともある。また、教室の机やガクの修理はかれがすべておこなっていた。

(能力、性格特性)

知能偏差値はSS 43である。

職業適性検査では、知能、知覚能力は中卒訓練生集団の平均値とほぼ同値であるが、器用さの特性はすぐれている。

性格検査では平均型であるが、神経質でない、に特徴がみられる。

中学生活においても外向的で、学級内でも人気があったことと一致する。

職業興味は日常の行動と一致し、訓練職種に高い興味を示している。

(期待)

知能は低いが、器用さの特性にすぐれ、職業興味も一致している。この二つの特性をうまく活用すれば職業訓練効果はかなり期待できる。心配点は“対人的領域”への興味があまりにも低いので自動車修理の職務について接客に関する場面で不適応にならないともかぎらない。その原因を調べて、適切な指導をしておく必要があろう。

興味の種類

興味の種類	得点	パーセント
A 対人的, 社会的	8	10
B 自然的	28	90
C 機械的	29	90
D 実業的	17	50
E 能力的	19	40
F 研究的	19	50

興味の型

1 言語的	4	10
2 技能的	12	90
3 計算的	7	20

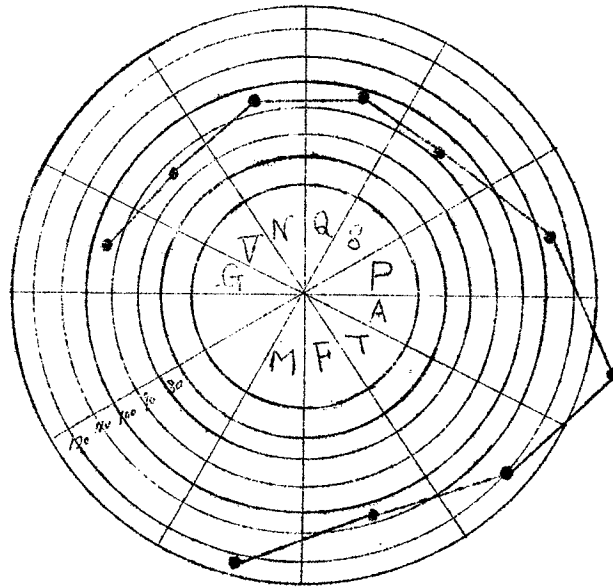
興味の水準

a $9 \times 1 =$	9	62	10
b $10 \times 2 =$	20		
c $11 \times 3 =$	33		

指数
偏差値

矢田部ギルフォード性格検査プロフィール

標準点	パーセント													標準点										
1	5	10	20	30	40	50	60	70	80	90	95	99	5											
D	0	1	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
I	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
N	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	20	20	20



《事例6》 T、A君（総高訓「12」溶接科）

知能は低い、職業興味が高い訓練生

（総高訓への適応）

1年生次の訓練成績をみると、学科では中位、実技では中の上である。

卒先して物事を行ない、努力を怠らない明るい性格で、まじめであると担当教師は評価している。

（能力、性格特性）

知能偏差値はSS 31でかなり低い。

職業適性でも空間判断力はよいが、その他は低い。

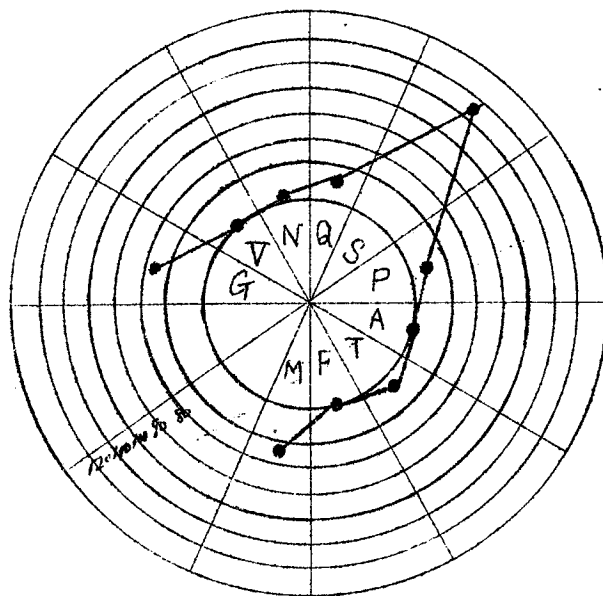
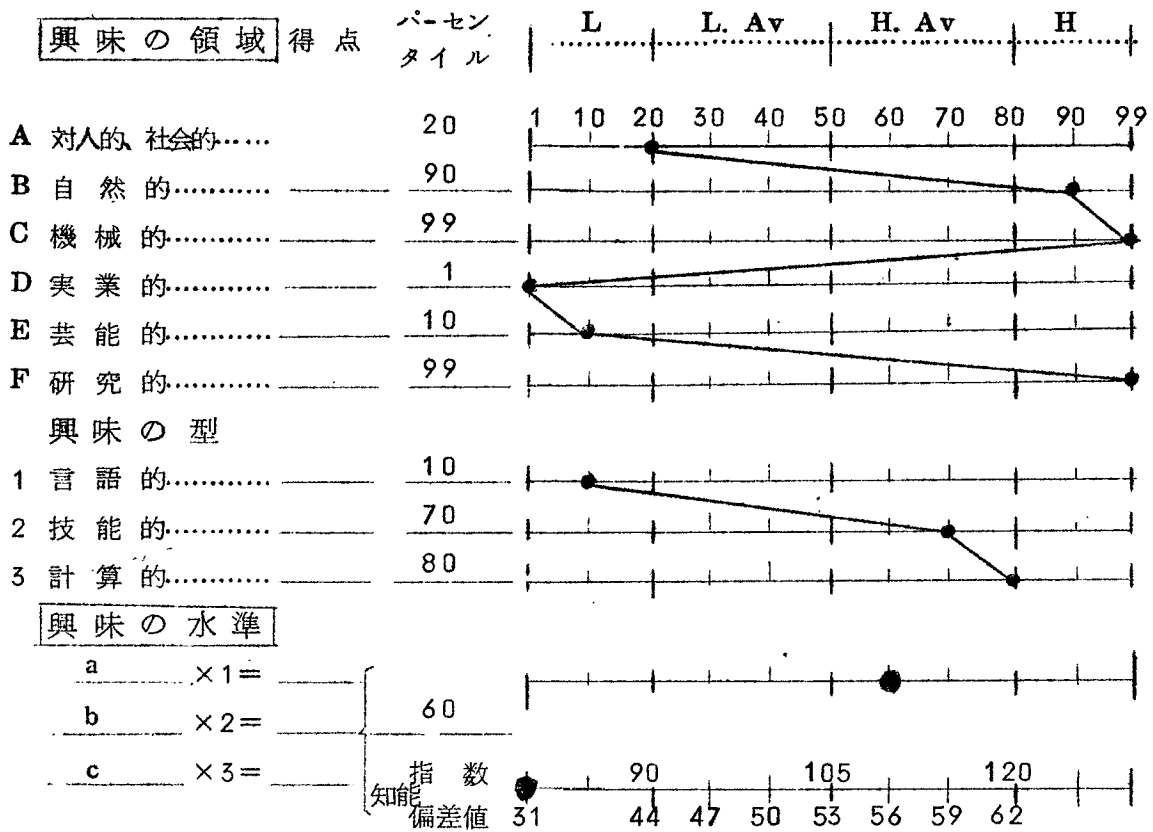
ところが、職業興味検査では訓練職種と一致する機械的領域にかなり高い値を示し、また研究的領域にも高い値がみられる。さらに、技能的型で高い興味をしめしているので訓練職種にとってもよく合致しているといえる。

（期待）

知能は低くても、職務に対する興味が一致していると、訓練成績もあがる好例である。

かれのような特性をもった場合、新しい職場に入ってすぐは他の人より仕事の実績はあがらないかもしれないが、時期が経過するにつれてかなりの実績をあげる場合もある。

また、訓練過程においても、訓練初期には能力の向上がめだたないが、徐々に習得がはやまってくる傾向が期待される。ゆえに、集団のペースにまきこまずに、個人の習熟過程を生かして指導すれば、知能の低い面はある程度までおぎなうことができると思われる。



《事例7》 S. K君 (総高訓「12」ブロック建築科)

知能が低く、しかも不器用な訓練生

(総高訓への適応)

学科成績、実技成績とも中の下である。

必要以外のことはすこしも話さない。一人でこつこつ仕事をやっている。自動車整備を本人はやりたくてしかたないらしいが、能力的に無理ということでブロック建築科にまわってきた。

(能力、性格特性)

知能偏差値はSS 35で低い。

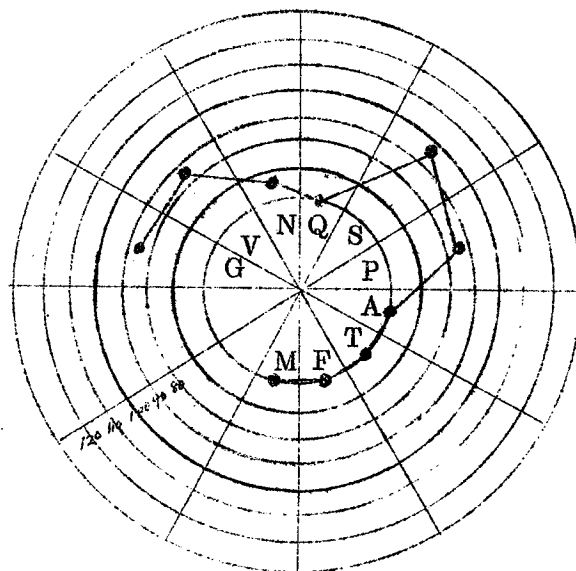
職業適性性能は全般として低い。特に、手腕、手指の器用の値が低い。手の機能に欠陥があるのではないかと思い調べたが、その様子もなかった。担任教師からみても、すべての場面で不器用だそうである。

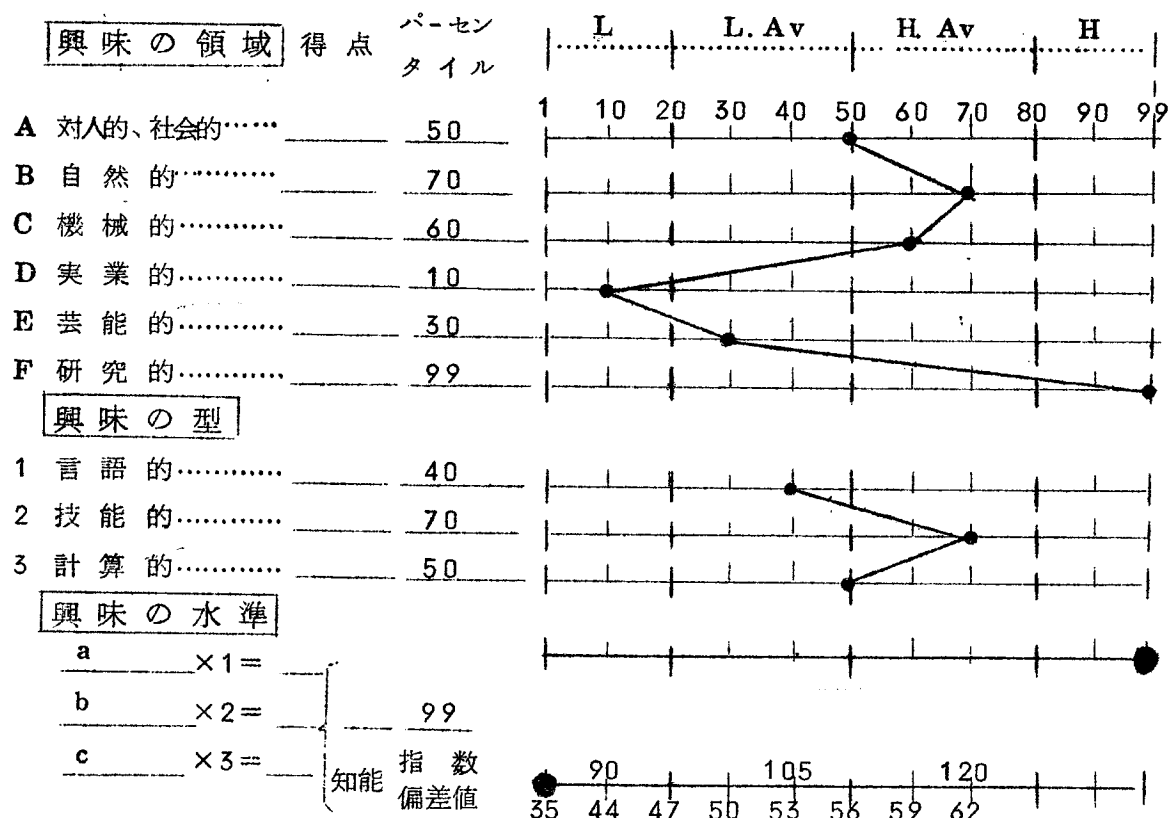
職業興味検査での特色は、研究的領域が高い。機械的領域では中卒訓練生平均とほぼ同値である。また、興味水準と知能水準との不一致がめだっている。つまり、かれの知能ではこなせないであろうと思われる職務をのぞんでいる。

(期待)

不器用という特性はかならずしもその人の短所とはならない。ブロック建築のように大きな動作の職務であれば、特にそうであろう。

かれの特性として、研究的領域に興味を高く示したり、職業興味水準が非常に高い理由がなにに起因しているか調べてみる必要がある。その原因が中学校教師の関心のむけかたによっているのか、本当に興味をもっているのか検討し、ブロック建築の職務の中でも、かれの興味を育てるように配慮できないであろうか。





《事例8》 K、O君（総高訓「12」ブロック建築科）

非常に知能が低く、しかも職業興味も一致していない訓練生

（総高訓への適応）

学科成績は12名の学級中最下位、実技成績は下から2位で訓練効果はほとんどあがらない。1年生の9月頃に一時休みが多くなった。その理由は親しくしていた友人が退校して就職した。その友人にさそわれて待ちあわせて本人も就職するつもりだったらしいが、友人がこなかったとかで就職はせず、総高訓への通学を再開した。

（能力、性格特性）

知能偏差値はSS 20で精神薄弱者のである。

職業適性検査でみた性能点もすべて低く、通常の職業訓練は不可能と思われる。

性格はおとなしく、無口で悪いことはしないが、活発なところがなく、人に言われて使い走りをする程度であり、担当教師からみても、将来ブロック建築工として成功するかどうか心配であるといわれている。

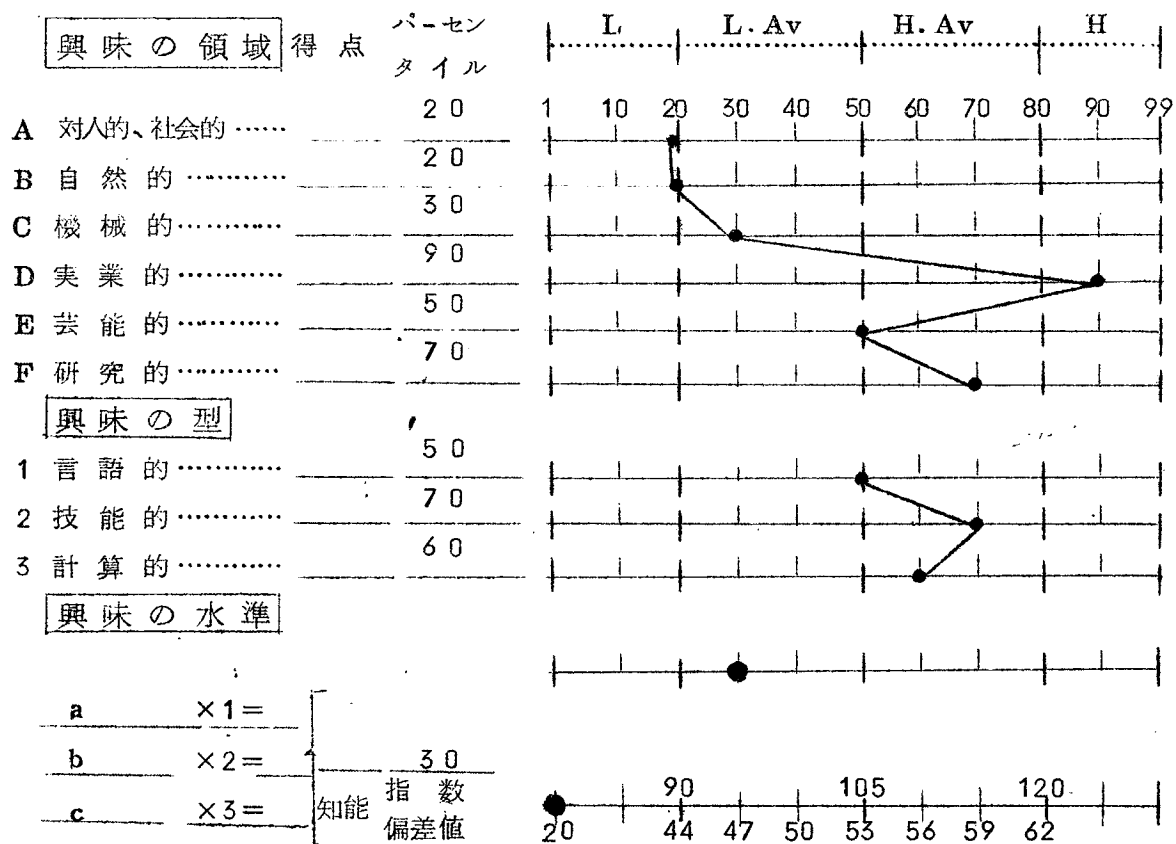
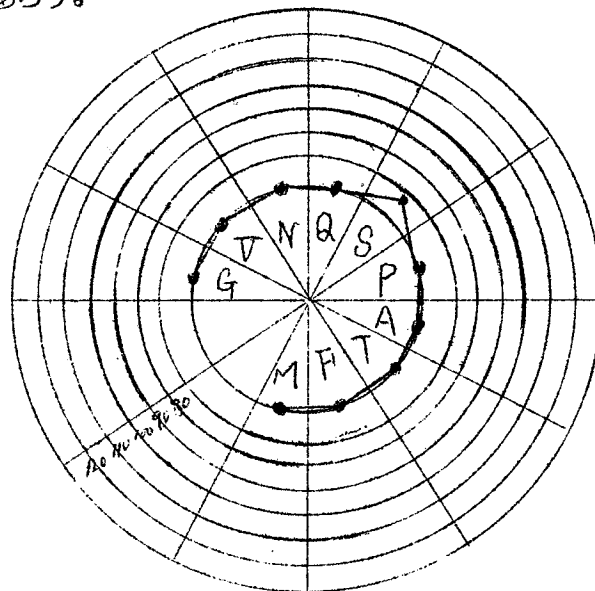
（期待）

集団方式による現状の職業訓練では精神薄弱者の職業的能力の伸長はかなり困難をともない、一つ誤ると学級全体の青少年の能力向上にも影響をあたえる。

職業興味検査でみても、実業的領域に最も高い値をしめしていることからみると、ブロック建

築工をめざすよりも、発送事務（手紙配達、はしりつかい、荷物整理）または、売買に関する仕事などについての方が本人は満足して職業をいとなめるのではあるまいか。

ブロック建築工をめざして2年間訓練過程をすごすことが、性格のゆがみや劣等感に結びつかないように配慮する必要があるだろう。



【事例 9】 N、N 君（総高訓「15」 仕上科）

中学での性格が問題にされていた訓練生

（総高訓での適応）

訓練成績は中位である。

（生活事情）

父は保険会社の支所長をしており、世帯全体の月収 13 万で経済的に安定している。3 人兄弟の次男である。

（入校動機）

中学での成績は国語 2、数学 2、理科 3、技術 3 である。中学担任の言葉によると、学業成績がよくなく、他に進路がないので、総高訓をすすめたそうである。

気ままで責任感なく、勝手な行動が多い。

また、あきっぽくて、いたづらをすればかれというほど要注意人物であった。

反面、明朗なところもあり、人なつこく涙もろい性格である。身体的に発育がおくれており身体が小さいかった。

（能力、性格特性）

知能偏差値は SS 41 で低い。

職業適性検査でみても知能に関する能力は低い。しかし、知覚能力、器用さではかなりすぐれた能力を示している。

性格面では、中学時代には要注意にされていたが、性格検査でみるかぎり平均型を示しており、特記すべき事項はみあたらない。

身体的に発達がおくれている特性がある。

（期待）

どこえも進路がない。おまけに要注意人物であるから総高訓に入校してきた。

ところが、職業適性検査でみると知能に関する能力をのぞいて、知覚能力、器用さにおいて、例のないほど高い値を示している。

この特性を適切に活用すれば、予測もできない能力の伸長があるのではないだろうか。

中学校での性格の悪い面を拡大解釈し、不良化などを心配するより、すぐれている特性を生かせないものであろうか。

心配な点は職業興味は訓練職種にむいていないらしく、「機械的領域」で 40 パーセントイルである。職業興味は変容する可能もあるので、訓練過程での興味変容の観察を期待したいものである。

興味 の 領域

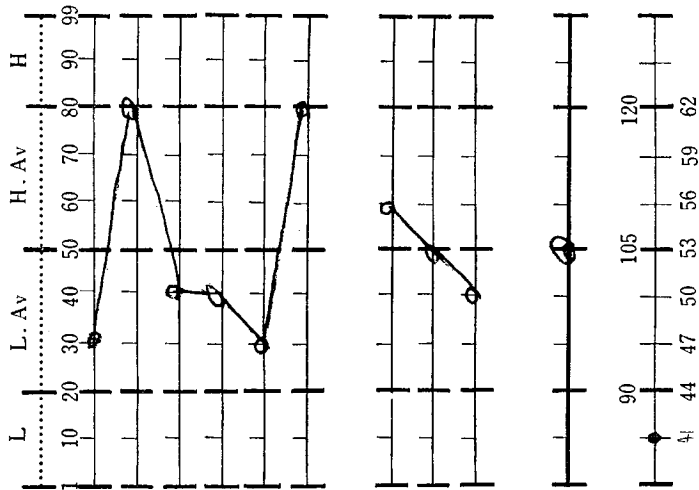
興味 の 領域	得 点	パーセント タイトル
A 対人的, 社会的.....	13	30
B 自 然 的.....	26	80
C 機 械 的.....	22	40
D 実 業 的.....	16	40
E 芸 能 的.....	17	30
F 研 究 的.....	26	80

興味 の 型

1 言語 的.....	10	60
2 技 能 的.....	10	50
3 計 算 的.....	9	40

興味 の 水準

a $7 \times 1 =$	7	知 能 指 数 偏差値
b $14 \times 2 =$	28	
c $9 \times 3 =$	27	

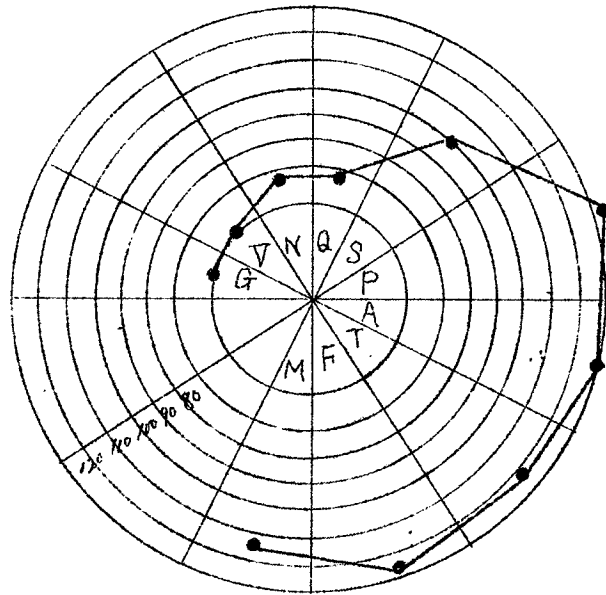


矢 田 部 ギ ル フ ォ ー ド 性 格 検 査 プ ロ フ ィ ー ル

標準点 パーセント	1	2	3	4	5
D	0	1	2	3	4
C	1	2	3	4	5
I	2	3	4	5	6
N	3	4	5	6	7
O	4	5	6	7	8
C	5	6	7	8	9
A	6	7	8	9	10
G	7	8	9	10	11
R	8	9	10	11	12
T	9	10	11	12	13
A	10	11	12	13	14
S	11	12	13	14	15

情 緒 的 安 定
抑 う つ 性 小
気 分 の 変 化 小
劣 等 感 小
神 經 質 で な い
客 観 的
協 調 的
攻 撃 的 で な い
非 活 動 的
の ん き で な い
思 考 的 内 向
服 従 的
社 会 的 内 向

情 緒 不 安 定
抑 う つ 性 大
気 分 の 変 化 大
劣 等 感 大
神 主 非
主 非
客 観 的
協 調 的
攻 撃 的
活 動 的
の ん き
思 考 的 外 向
支 配 性 大
社 会 的 外 向



《事例10》 K、T君 (総高訓「16」板金科)

職業興味が訓練職種の性格と一致していない訓練生

(総高訓での適応)

訓練成績は第一年度中間成績でみると、数学36、生産工学100、板金加工70、自動車板金58、ガス溶接86、電気溶接98、材料90、材料力学75、製図75、機械工作法84であり、学科成績は中位である。

実技は67で、中位である。

(生活事情)

父の職業は土木建設業で機械、建設材料などの運搬をしている。母は料理店員である。

世帯全体の月収は8万5千円で、2人兄妹の長男である。経済的には普通であるが共稼ぎ家庭である。

(入校動機)

中学3年次の成績は国語3、数学3、理科3、技術2で普通である。学習意欲はあるのだが努力不足であるといわれている。

進路希望としては、母親の職業の関係もあってか、調理士であった。しかし、中学担当の判断では、本人が足が悪いという身体的欠陥をもっていることを考えると、調理の仕事は終日立作業なので無理と考え、断念させて、すぐ就職するより職業訓練を受けることをすすめたのだそうである。

(能力、性格特性)

身体的に足がびっこであるという欠陥をもっているが、本人はあまり気にしておらず、人に好かれるタイプで明朗で憎めない性格であるといわれている。

しかし、性格検査でみると、情緒不安定、社会的不適応であり、思考的内向であり、外面にあらわれないパーソナリティの不均衡の傾向がみられる点、集団生活への適応が心配される。

知能偏差値はSS 55とすぐれている。

職業適性でもすぐれた性能を全般に示している。

職業興味では芸術的領域に高い値を示し、職業訓練職種で期待される機械的領域には 30 パーセントと低い興味を示している。

また、知能に比べ、興味の水準を低くおいていることは劣等感があらわれているのではあるまいか。

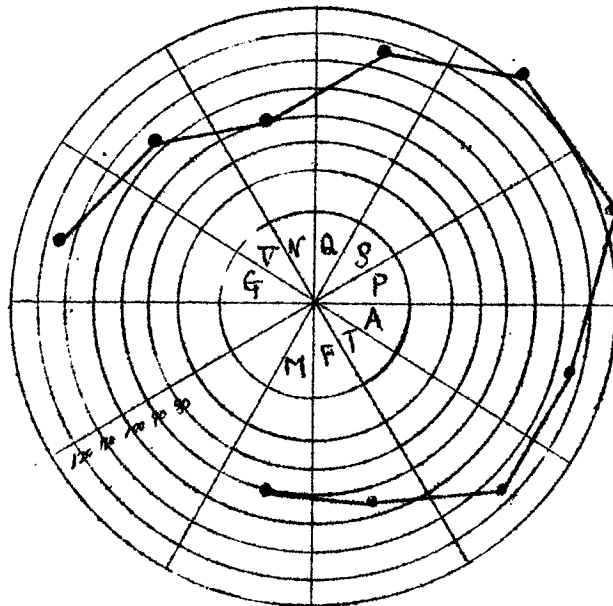
(期待)

最も心配な点は職業興味が訓練職種と一致していない点である。さらに、性格的に不適応型をしめしていることと重なって、職務そのものに異和感をもつ時期があると予測される。それに、本人の意志で総高訓を決定していないので、訓練生活の過程で職業について話し合う機会を多くもつ必要があろう。

身体的欠陥が板金という職務を職業生活として遂行していく場合に無理ではないものかどうか十分に配慮してあげる必要もある。

知能が高く、興味が一致せず、集団生活への不適応兆候が内面化しているとすれば、いつの時期にか、退校する意志に結びつく可能性もあるかもしれない。

知能を生かし、芸術的関心を大切にしながら、かれの職業生活を援助する配慮が必要と思われる。(なお、趣味は絵画、ぼんさい、つり、読書をあげている。)



興味 の 領域

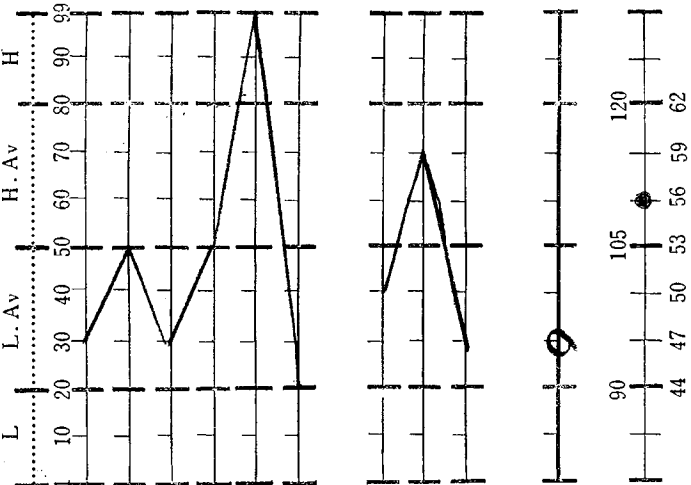
A 対人的, 社会的	14	得点
B 自然的	18	パーセント
C 機械的	20	50
D 実業的	19	20
E 芸術的	25	50
F 研究的	14	99
		20

興味 の 型

1 言語的	8
2 技能 的	12
3 計算 的	8

興味 の 水準

a	11	$\times 1 =$	11
b	10	$\times 2 =$	20
c	6	$\times 3 =$	18
		指数	55
		知能	30
		偏差値	20



矢田部ギルフォード性格検査プロフィール

標準点	パーセント	1	2	3	4	5
D	10	5	10	20	30	40
C	15	1	2	3	4	5
I	20	1	2	3	4	5
N	25	1	2	3	4	5
O	30	1	2	3	4	5
C	35	1	2	3	4	5
A	40	1	2	3	4	5
G	45	1	2	3	4	5
R	50	1	2	3	4	5
T	55	1	2	3	4	5
A	60	1	2	3	4	5
S	65	1	2	3	4	5

抑うつ性小
気分の変化小
劣等感小
神経質でない
客観的
協調的
攻撃的でない
非活動的
のんびり
思考的内向
服従的
社会的内向

抑うつ性大
気分の変化大
劣等感大
神経質
主観的
非協調的
攻撃的
活動的
のんびり
思考的外向
支配的
社会的外向

情緒的安定
社会的適応
非活動的
非活動的
内省的
非主導的

情緒不安定
社会的不適応
活動的
活動的
内省的でない
主導権を握る

3. 特別な事情の訓練生の事例

《事例 11》 M、T君 (総高訓「16」機械科)

素質があり、職業興味も訓練職種にあってはいるが、養護施設で経済的にめぐまれない訓練生
(総高訓での適応) 学科成績は中位であり、実技成績は中位である。まじめで作業もていねいに仕上げる。

(入校の動機と生活事情) 4才から養護施設に収容され、現在も施設から通学している。父は病死し、母と3人の姉は行方不詳である。義務教育で予算が打切られ、現在は寄付によって経費をまかなっている。家庭不在のための経済的条件の欠如が生活全般を支配している。

中学校3年次の学業成績は国語2、数学2、理科2、技術2で普通より劣る。学習に対して消極的で発表しない。自分の気持ちをはっきり表現しない。学業はできないというよりやらなかったと中学担任教師はいう。

総高訓入校の動機は、生活事情によるが、中学担任と一緒に総高訓の実習場などを見学し、本人の希望で入校を決定している。

調査書の記録には、“1、2年には進路に対して定まらず、3年生になって施設の方針がきまり、技術を修得して社会にだしたい希望をもっている。”とある。

本人の希望で総高訓が進路として選ばれているが、家庭環境のめぐまれない青少年に対する職業訓練の積極的姿勢がのぞまれる。

(能力、性格特性)

知能偏差値はSS 49で普通である。

職業興味検査では機械的領域にきわだって高い値をしめし、技能的型でも高い値をしめしている。

職業適性検査の性能は普通以上であり、特に手腕、手指の器用ではすぐれている。素質や興味からみた場合、職業訓練過程における学習効果が十分に期待できる。

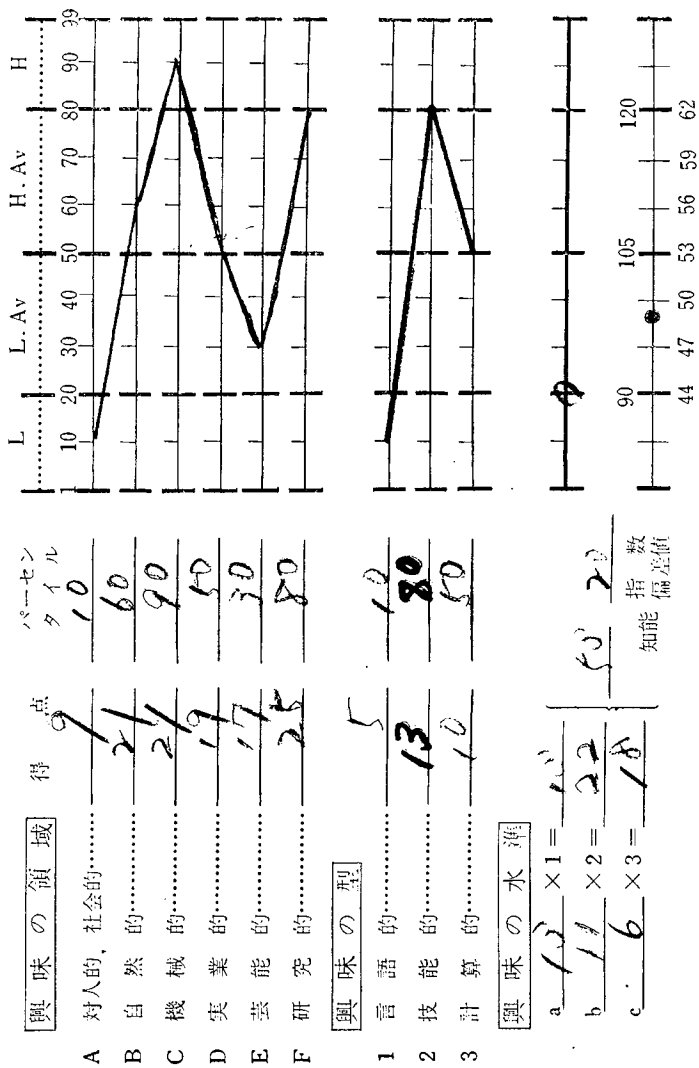
性格特性は施設児特有の暗い面があるといわれている。性格検査の結果では、「攻撃的」「思考的内向」に特徴がみられるが、情緒的不安定と結びついていないので、社会的適応と解釈でき、しかも反省的、思索的性格をしめしているため職業訓練校での生活に適応できると思われる。

ただ、「思考的内向」が孤独的感情として表出すると、グループから離れて学習効果にも影響する場合もある。

(期待)

M、T君は素質特性、職業興味でも職業訓練職種と一致しており、性格的にも機械職種にむく、「思考的内向」をもっている。このように能力、性格特性に適合している青少年が将来の職業生活で成功するように職業訓練過程での援助が期待される。

養護施設者であったという特種環境を積極的にとらえ、経済的重荷につぶれないようになんらかの援助をすべきと考える。



矢田部ギルフォード性格検査プロフィール

標準点	1	2	3	4	5
1	10	20	30	40	50
2	15	25	35	45	55
3	20	30	40	50	60
4	25	35	45	55	65
5	30	40	50	60	70
6	35	45	55	65	75
7	40	50	60	70	80
8	45	55	65	75	85
9	50	60	70	80	90
10	55	65	75	85	95
11	60	70	80	90	100
12	65	75	85	95	105
13	70	80	90	100	110
14	75	85	95	105	115
15	80	90	100	110	120
16	85	95	105	115	125
17	90	100	110	120	130
18	95	105	115	125	135
19	100	110	120	130	140
20	105	115	125	135	145
21	110	120	130	140	150
22	115	125	135	145	155
23	120	130	140	150	160
24	125	135	145	155	165
25	130	140	150	160	170
26	135	145	155	165	175
27	140	150	160	170	180
28	145	155	165	175	185
29	150	160	170	180	190
30	155	165	175	185	195
31	160	170	180	190	200
32	165	175	185	195	205
33	170	180	190	200	210
34	175	185	195	205	215
35	180	190	200	210	220
36	185	195	205	215	225
37	190	200	210	220	230
38	195	205	215	225	235
39	200	210	220	230	240
40	205	215	225	235	245
41	210	220	230	240	250
42	215	225	235	245	255
43	220	230	240	250	260
44	225	235	245	255	265
45	230	240	250	260	270
46	235	245	255	265	275
47	240	250	260	270	280
48	245	255	265	275	285
49	250	260	270	280	290
50	255	265	275	285	295

抑うつ性小
気分の変化小
劣等感小
神経質でない
客観的
協調的
攻撃的でない
非活動的
のんきでない
思考的内向
服従的
社会的内向

情緒不安定
社会的不適応
非活動的
非衝動的
内省的
非主導的

抑うつ性大
気分の変化大
劣等感大
神経質的
客観的
協調的
攻撃的
非活動的
のんき
思考的外向
支配性大
社会的外向

《事例12》 J、A君 (総高訓「16」の溶接科)

家庭の経済的条件にめぐまれない訓練生

(総高訓への適応)

学科成績は下位、実技成績は中位である。

授業態度がわるく、いねむりが多い。

その原因は家庭生活が不規則で毎日11時過ぎまでテレビをみているためであると思われる。

(生活事情)

父はかれが小学校時代に死亡。母が生命保険の外務員をやって生計をたてているが、現在病気入院中である。借家住まいで経済的にかなり困窮している。

(入校動機)

中学3年次の成績はALL 2、基礎知識、理解力共に不充分である。これでは公立高校進学は断念せざるおえない。

中学1、2年次には欠席が多く、基礎的学習が不足したのがその後の学習に影響している。中学3年になって、意欲がでてきたが、身体が弱いこととドモリであることに対する劣等感があるために学級生においつけなかった。

(能力、性格特性)

身体的に弱い上に、言語障害である。

知能偏差値はSS 43で普通より低い。

適性性能からみても素質は低い方であるが手指の器用さは高い値を示している。

職業興味では機械的領域、対人的領域、自然的領域ともに同じ値を示し、興味は訓練と一致している。

性格特性は平均的型であるが、非協調的特性が目立ち、社会的不適応の傾向を示している。

(期待)

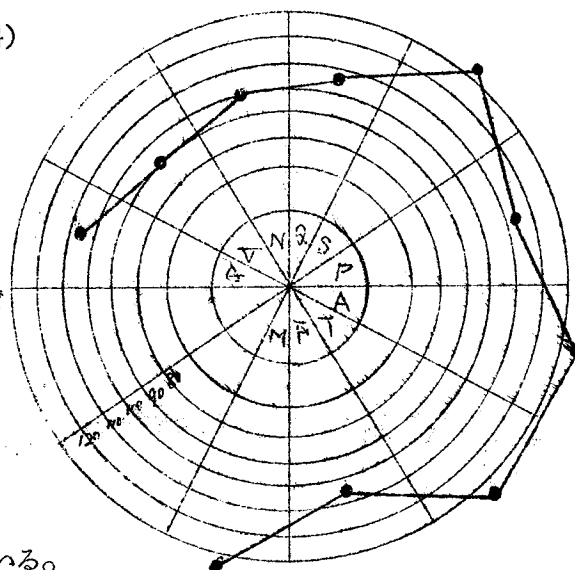
中学校教師の記述にあるように、「時には非常に意欲的に学習に取り組み、向上心も強い」点を伸長できないであろうか。

経済的な重荷と母子家庭における情緒の不安定、それに母親の病気。それに加えて、身体的欠陥と素質の低さと個人および家庭環境ともに、青少年にとってあまりにも適応が困難な状況にある。

知能の低い原因も環境に影響されているのかもしれない。

このような状況下におかれれば、一般的には意欲がなくなり、なげやりな生活におちいりやすい。いねむりも多くなろう。

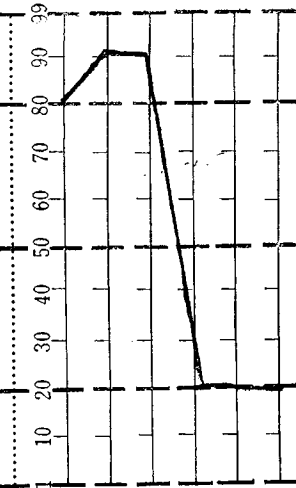
かれの生活全体を指導するのは職業訓練の一担当者には不可能であろう。しかし、生活環境から生ずる学習状況下におけるひずみを適切に指導する必要がある。



興味の種類

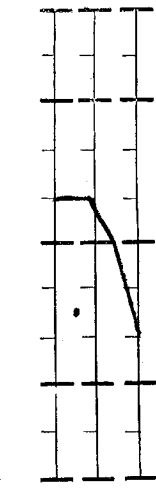
得点

- A 対人的、社会的
B 自然的
C 機械的
D 実業的
E 芸術的
F 研究的



興味の種類

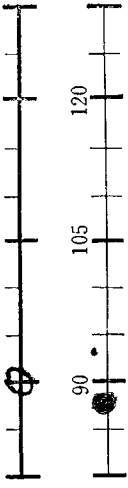
- 1 言語的
2 技術的
3 計算的



興味の水準

a $16 \times 1 = 16$
b $8 \times 2 = 16$
c $6 \times 3 = 18$

知能指数
偏差値



矢田部ギルフォード性格検査プロフィール

標準点	パーセント	1	2	3	4	5	標準点	パーセント						
D	99	1	5	10	20	30	40	50	60	70	80	90	95	99
C	90	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
I	80	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
N	70	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
O	60	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
C	50	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
O	40	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
C	30	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	20	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
G	10	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
R	0	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
T	0	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
A	0	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
S	0	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12

抑うつ性小
気分の変化小
劣等感小
神経質でない
客観的
協調的
攻撃的でない
非活動的
のんびり
思考的内向
服従的
社会的内向

抑うつ性大
気分の変化大
劣等感大
神経質
主観的
非協調的
攻撃的
活動的
のんびり
思考的外向
支配性大
社会的外向

情緒的安定

社会的適応

非活動的

非活動的

内省的

非主導的

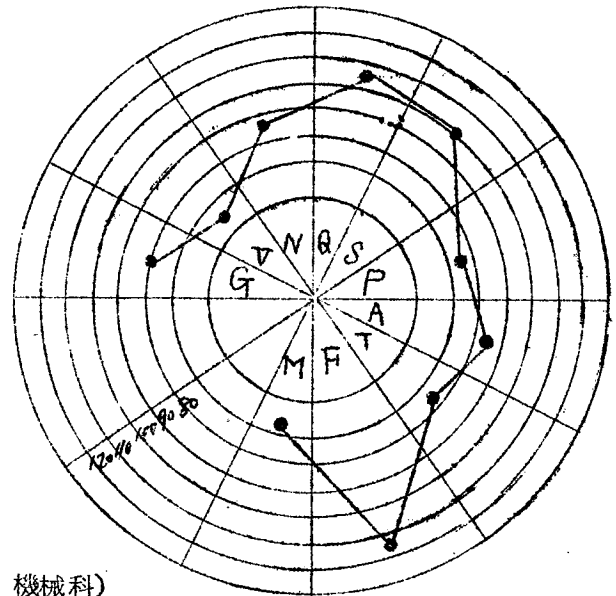
社会的不適応

活動的

活動的

内省的でない

主導権を握る



《事例 13》 N、Y 君 (総高訓「16」機械科)

素質、職業興味傾向は良好であるが、母子家庭で経済的にめぐまれず、欠席の多い訓練生
(総高訓での適応)

総高訓では欠席が多く、訓練成績は現在最下位である。機械科担任の観察によると、怠惰であることが一番心配だそうである。このままでは就職させても長続きしないであろう。しかし、訓練態度をうまく形成できればこれからの向上が期待できる。

(生活事情)

母子家庭で父は本人が 10 才時に病死している。3 男であり、母は旅館従業員として勤務、長男 19 才は調理士、2 男 17 才は農業高校在学中である。

母親の職務の関係上、本人と家庭で顔をあわせる時間が少なく、帰宅後の生活に保護者の十分な配慮がとどかない事情にある。

(入校動期)

母親の月収が 2 万万、兄の月収を含めて 5 万 2 千円である。経済的にめぐまれていない。工業高校は近距離にはなく、交通費がかなりかかるので実際上通学不可能である。そこへいくと総高訓は自宅のすぐ近くにあるので便利であった。

総高訓に不合格の場合は就職することに決めていた。

中学 3 年次の成績は ALL 2 で、学力の向上ない、意欲に欠ける、無関心なところが多いという記述がある。中学 3 年間無欠席である。

進路の記録には、中学校卒業後は技術を修得したい希望をいだき、実社会に進みたいと強く意志をかためている、とある

(能力、性格特性)

知能偏差値は SS 50 である。

職業適性での特長は空間知覚能力にすぐれており、機械工になる性能点をしめしている。

職業興味では機械的領域で 80 パーセントの高い値を示し、訓練職種と一致している。さらに、中学校での所見にも「工作機械などの組立操作に関心をもち、技術科にはかなりの成果を

興味の種類

興味の種類	得点	パーセント
A 対人的、社会的.....	6	10
B 自然的.....	24	80
C 機械的.....	27	80
D 実業的.....	17	50
E 能力的.....	19	40
F 研究的.....	27	80

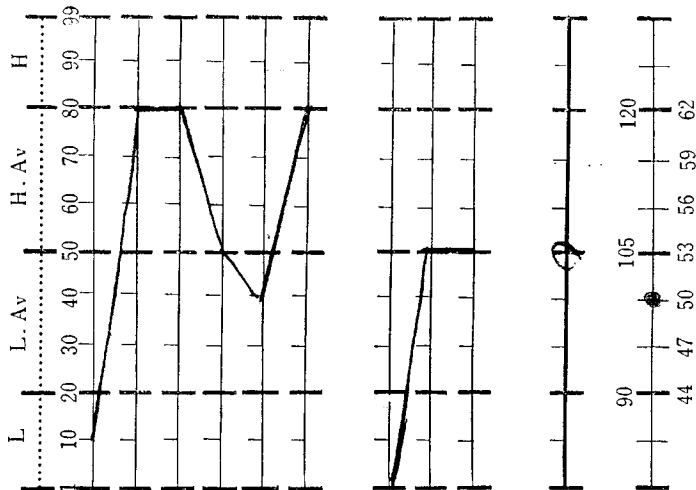
興味の型

1 言語的.....	1
2 技能的.....	10
3 計算的.....	10

興味の水準

a. $8 \times 1 =$	8
b. $13 \times 2 =$	26
c. $9 \times 3 =$	27

知能
指数
偏差値



矢田部ギルフォード性格検査プロフィール

標準点	1	2	3	4	5	標準点																
パーセント	1	5	10	20	30	40	50	60	70	80	90	95	99									
D	0	1	0	2	3	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
I	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
N	0	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
O	0	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
Co	0	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
Ag	0	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
G	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
R	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
T	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
A	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
S	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	

抑うつ性小
気分の変化小
劣等感小
神経質でない
客観的
協調的
攻撃的でない
非活動的
のんきでない
思考的内向
服従的
社会的内向

情緒的安定

社会的適応

非活動的

非活動的

内省的

非主導的

抑うつ性大
気分の変化大
劣等感大
神経質
主観的
非協調的
攻撃的
活動的
のんき
思考的外向
支配性大
社会的外向

情緒不安定

社会的不適応

活動的

活動的

内省的でない

主導権を握る

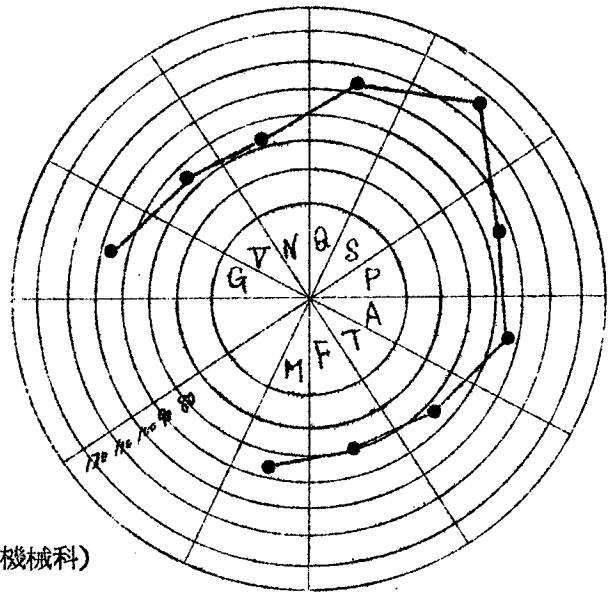
あげている、という記述もあり、素質、関心ともに職業訓練の効果が期待できると思われる。

性格特性はテストからみるかぎり、平均型あるいは情緒的安定にややよっている型をしめし、問題があるとは解釈できない。

（期待）

素質、性格に問題がないのに訓練成績の向上がみられない。家庭の生活事情とも関係しているとも考えられるので、欠席せねばならぬ原因を調べ、学習に時間をかけられるように保護者とも相談し、援助しないと、保有している素質をのばすことができず、欠席が理由で学級の学習進度をとりもどせないままに2年間で過ぎてしまう恐れもある。

経済生活をおぎなうために、アルバイトをしているなど、欠席の理由を的確にとらえ、父親がわりとしての指導員の配慮がのぞまれる。



《事例14》 I、O君（総高訓「15」機械科）

中学の特殊学級から入校した訓練生

（総高訓での適応）

訓練成績は下位である。欠席が多い。

性格がつかみにくく、注意をした場合など聞いていることはいるが行動はぜんぜん変化しない。機械工としての成功はむづかしいと機械科担任はいう。もし成功するとすれば、他人との接触の多い、変化に富んだ職種、例えば機械セールスなどがよいと言っている。

（生活事情）

父はテレビ部品工場で働いている。以前はクリーニング屋に勤めており、週に1回帰宅する生活であった。

父が厳格であり、その影響でか性格がひねくれている。経済的くらしむきはまあまあらしくであると記している。3人兄弟の長男である。

（入校動機）

3年次の前期の進路相談のときは、就職を希望していた。ところが、学級のほとんどが進学するので、総高訓を希望したらしい。

はじめは、農林高校を希望していたが、3年次の成績は国語2、数学3、理科2で受験するのが無理であった。

中学1年、2年次には特殊学級に在籍していた。落ち着きがなく、行動と言語が一致しない性格で、中学校で実施した知能検査では、知能偏差値はSS 41である。

(能力、性格特性)

知能偏差値はSS 48である。

職業適性検査でみると知能面は普通に近いが、知覚的能力におとっている。器用さは普通程度である。

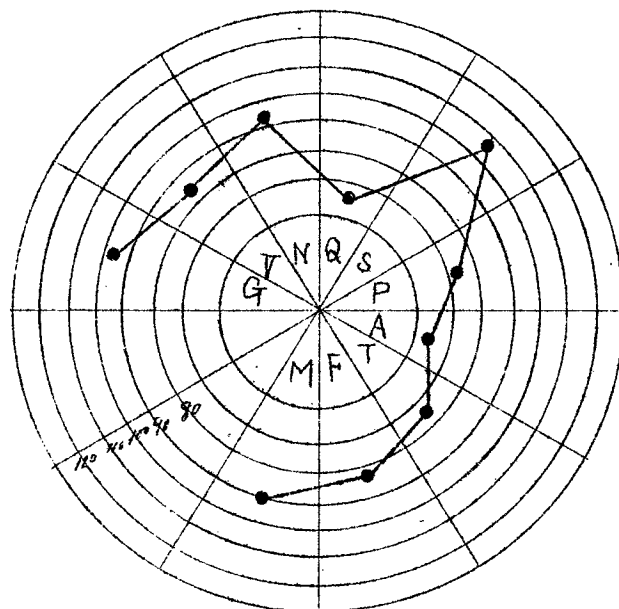
職業興味は、“機械的領域”、“芸術的領域”に特徴がみられる。

性格テストの結果は情緒安定性では普通であるが、主観的、非活動的、非衝動的、内省的、非主導的特性をしめし、問題児型をしめしている。

(期待)

特殊学級に在籍していて総高訓に入校してきたわけであるが、知能はそれほど劣っていない。性格特性とのぶつかりで、生活場面への適応が心配されたために特殊学級に入つたと推測される。テストでみるかぎり、特殊学級に在籍していたという偏見でかれをとらえるべきではあるまい。

性格特性が病氣的な原因にあるかどうか調べて、訓練生活にうちこめるように配慮してやる必要がある。



興味の種類

得点

A 対人的, 社会的..... 6

B 自然的..... 21

C 機械的..... 26

D 実業的..... 17

E 芸術的..... 29

F 研究的..... 20

興味の種類

1 言語的..... 7

2 技能の..... 10

3 計算的..... 9

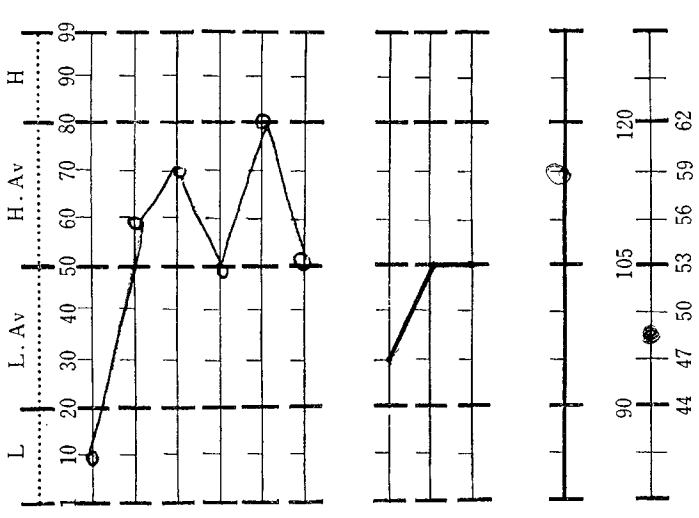
興味の種類

a $7 \times 1 = 7$

b $11 \times 2 = 22$

c $12 \times 3 = 36$

指数
知能偏差値



矢田部ギルフォード性格検査プロフィール

標準点	1	2	3	4	5
パーセント	1	2	3	4	5
抑うつ性	0	1	2	3	4
気分の変化	0	1	2	3	4
劣等感	0	1	2	3	4
神経質でない	0	1	2	3	4
客観的	0	1	2	3	4
協調的	0	1	2	3	4
攻撃的でない	0	1	2	3	4
非活動的	0	1	2	3	4
のんきでない	0	1	2	3	4
思考的内向	0	1	2	3	4
服従的	0	1	2	3	4
社会的内向	0	1	2	3	4

抑うつ性 気分の変化 劣等感 神経質 主観 非協調 攻撃 活動 のんき 思考的外向 支配性 社会的内向

情緒不安定

社会的不適応

非活動的

非活動的

内省的

非主導的

《事例15》 T、I君 (総高訓「19」板金科)

工業高校を中途して、1年おくらせて総高訓に入ってきた訓練生

(総高訓での適応)

学科成績は上位、実技成績は中位である。

移り気で情緒不安定である。

(生活事情)

父はトビ職で、母はゴルフ場に勤めている。

3人兄弟の長男であるので、自分が一人だしなければいけないという考えが強かった。

(入校の動機)

中学3年の成績はALL 4で、2年生の時には学級会長もやっている。

農業高校食品工学科に入学したが、1学期で中退している。本人は工業高校を希望していたので、家人の説得もきかず、やめてしまった。その後、幾回か中学教師に相談にかよい意見を交換したが、ある工場に就職した。県立工業高校をもう一度うけるという話もあったが、工業高校では実力がつかないと本人がいいだし、中学在学中には一言も口にしなかった職業訓練校に1年おくらせて入校している。就職してみて、技術をもっていなければやっていけないと感じて選んだといっている。

(能力、性格特性)

知能偏差値はSS 55である。

職業適性性能も平均して高い値を示している。

職業興味でも機械的領域に高い値を示し、技能的型に興味を高くもち、そして知能水準と職業興味水準がほぼ一致している。

性格的には平均型に近いが、思考的内向、社会的内外に特徴を示している。

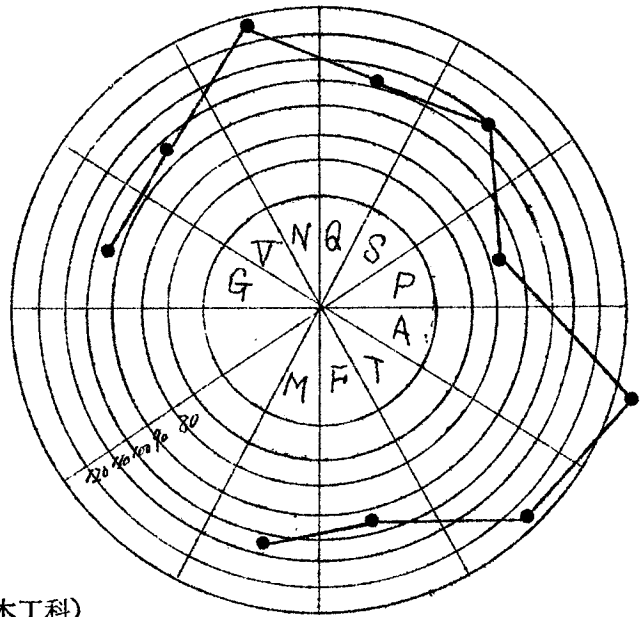
(期待)

職業訓練の客体として、典型的に適合しうる特性と生活事情にある青少年とみられる。

この青年が技術をもっていなければ、といって入校してきた希望をどこまで職業訓練がかなえられるかが重要な点である。

もし、職業訓練がかれの希望をかなえられなければ、中途退校する可能性が大きい。

進路を考えながら、職業的 索をしていくT、H君の積極的姿勢を適切に伸ばしたいものである。



《事例16》 T、O君 (総高訓「15」木工科)

素質も就職興味もよいのに、現在中退が心配されている訓練生。

(総高訓への適応)

訓練成績は上位であるが、これからの総高訓での学習にうちこめるか心配されている。

(生活事情)

農家の長男で、経済的くらしむきは普通である。

(入校動機)

中学での成績はALL3で公立農林高校に進路を希望していた。ところが、高校受験日まぎわになって、公立高校は受験せずに、総高訓の機械科を希望してきた。

本人が学級の他の友人と比較して、自分の成績では無理と思ひこみ変更したらしい。

総高訓では第2希望の木工科に決定した。

入校前3月に中学担当を尋ねたとき、低い総高訓を受けたことを後悔していたそうである。

(能力、性格特性)

知能偏差値はSS 52である。

職業適性検査からみた素質もよい方である。

職業興味も“自然的領域”“機械的領域”に高い値をしめし、よい傾向である。

性格は抑うつ性大にやや特徴がみられる。

中学校担当の記述では、温和でほがらかな性格で好感がもてる。また、何ごとにもよく努力するがやや積極さが欲しい、とある。

(期待)

素質もあり、職業興味もあっており、性格的にも温和なかれがなぜ職業訓練での学習継続を心配されるのであろうか、その理由を追求してみる必要がある。

興味の種類

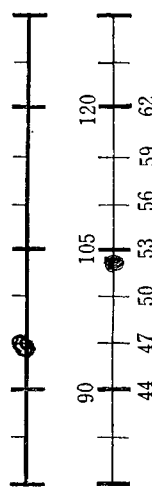
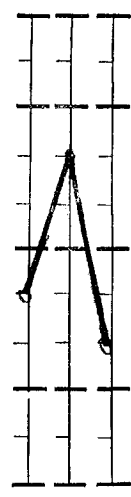
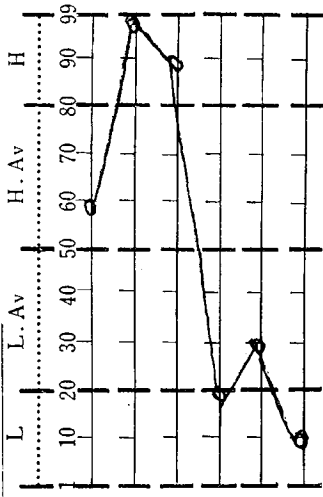
A 対人的、社会的.....	17
B 自然的.....	32
C 機械的.....	30
D 実業的.....	12
E 芸術的.....	18
F 研究的.....	11

興味の型

1 言語的.....	8
2 技能の.....	12
3 計算的.....	8

興味の水準

a $\frac{11}{10} \times 1 =$	11
b $\frac{10}{9} \times 2 =$	20
c $\frac{9}{8} \times 3 =$	27



矢田部ギルフォード性格検査プロフィール

標準点	ハートタイプ																					標準点
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21		
D	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19		
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19		
I	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19		
N	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19		
O	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19		
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19		
C	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19		
A	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19		
G	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19		
R	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19		
T	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19		
A	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19		
S	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19		

抑うつ性小
気分の変化小
劣等感小
神経質でない
客観的
協調的
攻撃的でない
非活動的
のんきでない
思考的内向
服従的
社会的内向

情緒的安定

社会的適応

非活動的

非活動的

内省的

非主導的

情緒不安定

社会的不適応

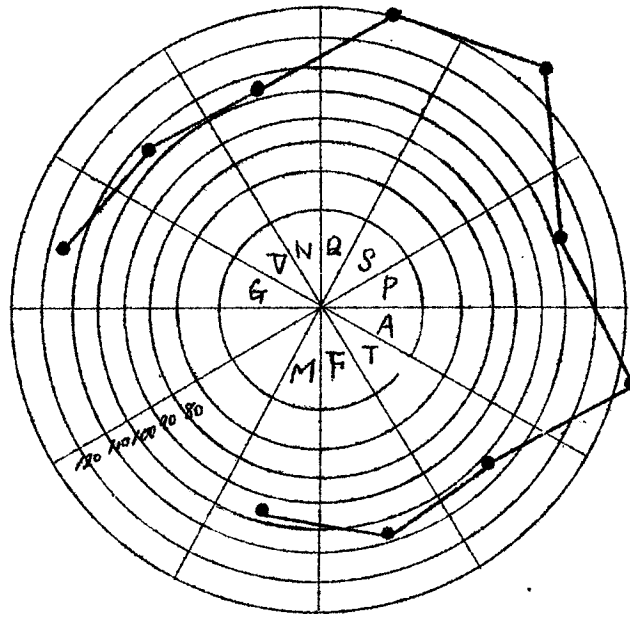
活動的

活動的

内省的でない

主導権を握る

抑うつ性大
気分の変化大
劣等感大
神経質的
主観的
非協調的
攻撃的
活動的
のんきな
思考的外向
支配性大
社会的外向



《事例17》 H、Y君 (総高訓「19」自動車整備科)

中途退校した訓練生

(総高訓への適応)

1学年の10月に退校している。学級の訓練生となじめず、また訓練内容そのものにもついていけなかった。

(生活事情)

かれが小学校のとき、父が交通事故で死亡している。母はコンクリート工場に勤め、姉と3人ぐらしである。

小学校時代は成績がよかったが、中学2年頃から勉強しなくなり、母が心配して中学担任に相談にきたこともある。家に帰って誰もいないことが原因していたらしい。

中学校では放送部に属し、放送のことは教師からなんでもまかせられて、よくやっていた。

中学での学業成績は国語2、数学3、理科3で普通程度であるが、伸びることを期待したわりに良くならなかった。

(入校動機)

母は進学を希望していたが、本人ははじめから自動車修理工場に就職したいといっていた。

3年の最後になって総高訓への進路を決定した。

(能力、性格特性)

知能指数はIQ108である。

自動車について興味をもっていた。

気が弱い子であったと中学担当教師はのべている。

以上、訓練生のプロフィールを事例として列挙した。分析にあたってはあえて分類したり、類型化したりすることはしなかった。

今後、それぞれの訓練生のもつている能力、適性が、職業訓練のあらゆる学習場面でいろいろの角度から把握する努力を継続したいと思っている。

このような意味で、訓練生の個性に関してほんの部分を理解した実態について、そのまま報告したのである。